

福島高 & 串間中のこと

FUKUSHIMA high school
KUSHIMA junior high school

Fukushima Junior High School

Kushima Junior High School

2017年に県内唯一の連携型中高一貫教育校としての歩みを始めた福島高校と串間中学校ですが、進学先として他校を選択する生徒が増加傾向にあります。未来の串間を考えると串間で唯一の中学校・高校を存続させることが必要。そのため今できることは何なのでしょうか

串間市の支援

小学校が10校、そして中学校、高校がそろう本市。2年前には串間中学校と福島高校の連携型一貫教育を開始するなど安定した学習環境を維持しています。

ところがこの2年、串間中から福島高への進学率は低下し、市内小学生の約1割が市外の中学校に進学しています。今後この状況が加速すると、小学校数の減少や中学校の規模縮小、さらには子育て世帯の市外流出による人口減少など、さまざまな問題に直面することが予測されます。

市では、2016年度から福島高校への入学支援金など家庭の負担軽減支援を行ってきましたが、今年度からそれに加えて、生徒の資質・能力を高めるための支援を行っています。その一つが福島高校の「地域創生学」の学びの環境とプロセスを改訂する「きらり！福高ロードアドバンスプロジェクト事業」です。まずは、串間市・串間市経済団体・福島高校・串間市教育委員会の4者で、生徒に真の串間の魅力を伝え、未来の串間で生きる自身の姿を想起してもらうための「学びのフィールド」を創造しました。その上で、2021年から実施される大学入学共通テストにもらんで、課題解決能力と現実社会対応能力を育成するために、課題解決型シミュレーション体験「ワールドピースゲーム」や台湾の高校生とのディスカッションなどをを行う海外研修などを実施しています。

福島高校の存続は、未来の串間市の行方を大きく左右します。本市では、就職にも進学にも強い魅力一杯の福島高校にするための支援をさらに続けていきます。

【福島高校と串間中学校を取り巻く環境】

宮崎県内唯一の連携型中高一貫教育校

- 串間中学校から福島高校へは簡単な連携型入試で進学できる
- 学力向上、部活動連携、6年間を通じたキャリア教育など、中高が連携して取り組んでいる

連携型入試での
福島高校入学率

2017年度 > 50.4%

2018年度 > 41.4%

市内小学校から
串間中学校への入学率

2017年度 > 約 91.1%

2018年度 > 約 89.6%

この2年間の
福島高校への入学者

定員 120名に
対して 68名

【福島高校進学者に対する市の支援】

生徒の資質・能力の向上への支援（大学AO・推薦入試に通じる能力の育成）

- 台湾研修の実施（旅費・宿泊費などの全額補助）
- 地域創生学の学びのフィールドの整備
- 地域創生学実践報告会の充実（市の事業化など）
- ワールドピースゲームの実施

家庭への負担軽減

- 新入学生徒1人当たり5万円を助成
- JR・よかバス利用での通学定期券・回数券を全額補助
- 成績優秀者には月額2万円を最大3年間給付（返済不要）

もっと知って両校のこと！

福島高校・串間中学校 魅力発信! きらりシンポジウム

8月3日（土）串間市文化会館において、福島高校と串間中学校の眞の魅力を伝え、郷土唯一の中学校・高校の存在価値を再確認してもらうと共に、両校を進路の選択肢として考えてもらうためのシンポジウムが開催されました。その中で行われたパネルディスカッションでは、両校の魅力や課題についてさまざまな意見が述べられました。



パネリスト

福島高校校長 川越 勇二氏
串間中学校校長 永井 敬雄氏
串間市PTA協議会会长 中村 春貴氏
福島高校保護者代表 門川 祥子氏
宮崎日日新聞社串間支局長 那須 友紀氏

—それぞれの学校の魅力は？

永井氏 串間中学校へは市内すべての小学校から子どもたちが集まって来ます。これが非常に素晴らしい環境だと思っています。規模の大きな小学校で学んだ子どもも小さな規模の小学校で学んだ子どもたちの良いところを感じられるし、その逆もしかり。いろいろな地域の子どもたちが一緒に学ぶことで、串間についてたくさんのことを探ることができます。

川越氏 福島高校は全校生徒が約200人という小規模な学校です。宮崎市内の普通科であれば全校で1,200人の生徒がいて、それだけの数の生徒一人ひとりが輝く場面をつくるのはなかなか難しく、そんな中、自己肯定感を持てずに学校が嫌になっていく生徒がたくさんいました。本校では生徒が少ない分、みんなに役割を与えることができる。それが自信や力につながっていくんです。

—保護者からの印象は？

中村氏 小規模な小学校に通っている小学生は規模の大きな串間中学校に通うことに対する不安を覚えていたかもしれません。みんな仲良くやっていますよ。

福島高校の良さは、たくさんの友だちと一緒に進学するので環境の変化によるストレスがないこと。先輩も串間中学校出身者が多

「両校の魅力って？ 課題って？ そして未来に向けて！」

パネルディスカッション

いので、ほとんどが顔見知りといいうのも大きいですね。

門川氏 地域創生学については、準備など相当大変そうですがとても良い取り組みだと思います。研究の成果をみんなの前で発表するという達成感は、その大変さを乗り越えたから得られるもの。その経験がAO入試や推薦入試、あるいは就職試験の面接に大いに生きています。

—どうすればもっと魅力が高まる？

那須氏 今夏、甲子園に出場した富島高校の指導者は、私立の強豪校に行く生徒がいる中、残った地元の子どもたちで甲子園を目指すという心意気でやられていました。串間中の能力ある生徒がそのまま福島高へと進学すれば、富島高校同様に甲子園など全国大会に出場できる可能性がある。勉強も大事ですが、部活動連携に力を入れるのも福島高をPRする1つの手ではないでしょうか。

中村氏 学力向上、部活動、キャリア教育が中高連携一貫教育の三本柱と言われるが、その内容や生徒がどう感じているのかが保護者に伝わってきません。他校の話を

どの中学校に進学するか深く考えたことがなかったけど、串間中学校に行ってみんなで楽しくいろいろなことを学んでいきたいと思いました。

シンポジウムに参加した福島小学校6年生の皆さん

福島高校の良さは、たくさんの友だちと一緒に進学するので環境の変化によるストレスがないこと。先輩も串間中学校出身者が多